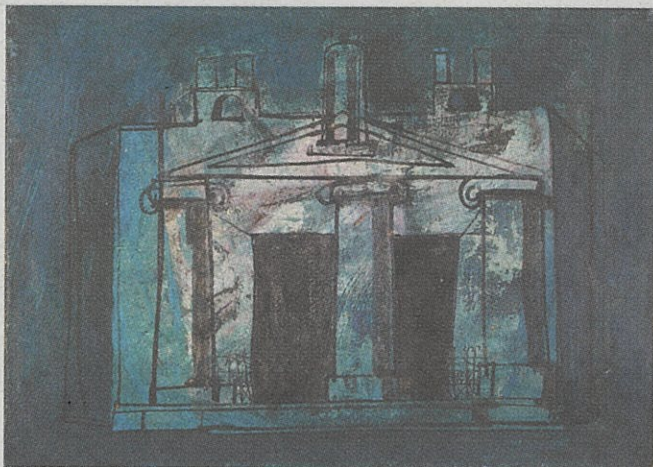


文化・芸術



「建物（青）」

1948年、油彩、カンバス
24・0センチ×33・0センチ

松本竣介（1912～48年）

大川美術館コレクション展
「特集展示：戦後80年松本竣介と
同時代の画家たち」から

《名画の扉》

第2次世界大戦前後（蔵）のような都会の風の過酷な時代に、澄み景やそこに立ち並ぶ建切った詩情豊かな作品物は、竣介の主要な毛を描き、36年という短い生涯を生き抜いた松本竣介。大川美術館のコレクションを代表する画家でもあります。本作は1948年に制作された竣介の絶筆といわれる作品の一つです。この時期、竣介は戦後の厳しい生活の無理がたたって体調を崩しており、展覧会への出品のために高熱を押しこめたものの、会場に足を運ぶことなくこの世を去りました。

竣介作品の特徴でもある自由な黒の線によって表された建物は、堅固さや重厚感とともに、まるでこの世のものではないかのような神秘的な雰囲気の色濃く漂わせています。

「街」（大川美術館）

（佐藤）